

**学校食育研究会の第11回研究大会**  
～今、学校給食をどのように楽しく味わうか？～ に参加して、

学校食育研究会は研究大会を毎年開催しており、今年は夏休み中の8月11日の山の日 Web 開催されました。大会の中の実例報告で食育への取組を大変頑張っ  
て成果も出している学校の活動発表があったので紹介させていただきます。

「コロナ禍におけるICTを活用した食育の取組 ～今ある環境の中でよりよい給食時  
間にするために～」

深谷市立深谷小学校 栄養教諭 佐々木規枝先生

1) 取組の経緯

本校の児童は、実態調査によると、給食が好きな児童は98%で、盛りつけカレンダー  
や献立表をよく見たり、給食室からのおいしそうなおいにおいに反応したりするなど、給  
食の時間を楽しみにしており、給食の残食も平均1%以下と少ない。しかし、中には  
食経験が少なく、野菜をほとんど食べられなかったり、食べる量が極端に少なかった  
りするなど、食べ物に対するこだわりのある児童も数名いる。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、給食時間は前向きで黙って食べる  
黙食の日々となり、給食の献立で伝えたいことを効果的に聞いてもらえるよう、お昼  
の放送や動画を活用して伝えることなどから始めた。そして ICT化が急速に進み、給  
食時間の動画活用、保護者への食育啓発、職員内の研修、各種調査など、今まで時  
間を掛けて行っていたことが、短時間で簡単に、そしてわかりやすく実施できるよう  
になった。

2) 具体的な取組の紹介

1. 給食時間の食に関する指導の工夫

① 放送による献立紹介

各クラスに毎日日便りを配付し、教室で読んでもらっていたが、コロナ禍により校内  
放送で伝えることに変更した。本校の放送委員会は、どのように伝えれば聞いてもら  
えるか、伝える表現力に力を入れている。栄養教諭の〇〇先生が書いた原稿を、お  
昼の放送で大変上手に読んでくれる。音楽にのせて「〇〇先生の、今日の献立何だ  
ろう？のコーナーです！」でスタートするお昼の放送は、黙食している児童たちがよく  
耳を澄ませて聞いている。

# 今日の献立なんだろう！



4月28日(木)

今日の給食は、たけのごはん 牛乳 シシヤモフライ 春キャベツのごま

マヨ和え かきたま汁です。

今日はたけのご飯です。たけのご飯に入っているたけのこは、昨日2年生が

皮をむいてくれたたけのこです。35本のたけのこの皮を、一枚一枚丁寧にむいて

くれました。2年生が皮をむいてくれたたけのこは、調理員さんに手渡され、米ぬ

かとたかのつめを使って、上手にあくをぬいてくれました。

(↑今日の給食なんだろう？をお昼に放送しています。)

[https://www.fukaya-e.ed.jp/index.php?page\\_id=74#\\_445](https://www.fukaya-e.ed.jp/index.php?page_id=74#_445)



## ② 動画による献立紹介

献立で伝えたい内容が、よりわかりやすいように給食調理室内の動画を作成した「何を作っているのでしょうか？」や「洗浄作業にどれくらい手をかけてくれているか」など、その時期や献立内容にあったものを取り入れるようにした。各学級担任のタブレットにエアドロップでデータを送り、放送委員のかけ声で動画を流してもらうようにした。あまり長い動画にしてしまうと、低学年は手が止まってしまうので、2分程度に収めるように作成した。

### ③ スタンド看板の活用

季節の旬のものを使った献立や、特に伝えたいことがある献立はスタンド看板を使い、給食が待ち遠しく感じるよう興味を誘う工夫をした。



## 2. 保護者への啓発

### ① レシピ紹介

これまでレシピは、給食室前に掲示し、いつでも児童が持ち帰れるように準備していた。保護者向けに実施する食育意識調査では、給食のレシピを参考にしている保護者は40%程度であった。本市の献立は、地場産野菜を使用した献立が多いので、家庭でも実施してほしいという思いがあり、給食では食べられるが家庭では食べないといった声も多く聞かれた。啓発の仕方を工夫して、より多くの保護者に簡単に作れそう! と思ってもらい、家庭でも作ってもらえるようレシピ動画を発信することを始めた。



レシピ紹介の動画

<https://www.youtube.com/watch?v=fgE-A5YTT2g>



## ② 食育だより

各学年で行う食に関する指導を実施した時は、内容をお知らせする食育だよりを発行している。

食育だよりでよく周知する全学年で実施している「自分で作るお弁当の日」では、6年生までにお弁当作り(準備から後片付けまで)を一人でやり遂げられるよう、学年ごとの取組を実施している。お弁当の日当日は、書画カメラを活用し、クラスごとに発表会を行う。保護者には、手は出さずに見守って下さいとお願いをし、本人と保護者の感想も書いて提出してもらう。保護者からは「手を出しそうになったが、一人でやるから!と何度も言われ、すべて一人でやり遂げ、成長を感じました。」や6年生からは「いつもお弁当を作ってくれる母に感謝したい。」などという多くの嬉しい感想がある。お弁当作りをきっかけに、家でおかず作りをする児童も多くみられる。学校での調理実習が以前のように実施できないが、自分で作るお弁当の実施は、実践につながりやすい取組だと感じる。



下記は給食だより(お弁当の日記載)

[https://www.fukaya-e.ed.jp/?action=common\\_download\\_main&upload\\_id=45439](https://www.fukaya-e.ed.jp/?action=common_download_main&upload_id=45439)



### 3. 校内研修の工夫

本校では、給食指導をどのクラスでも同じ流れになるようルールを統一している。食物アレルギーの児童への事故防止を徹底するため、そして校内のどの職員が代わりに入っても指導の仕方がわかるようにするためでもある。年度始めの職員会議の提案で、給食時間の全体の流れと注意すべきところを動画で見てもらおう。全体の流れは動画で理解してもらい、大切なことを重点的に言葉で説明している。時間短縮にもなり、会議の一部として説明するよりも、見て聞くことで、しっかり理解していただけているように感じる。



### 3) 成果○と課題●

○校内放送による「今日の献立何だろう？」は、表現力に力を入れている放送委員と放送内容の工夫で、以前よりも耳を傾けてもらえる時間となった。動画による「今日の献立何だろう？」も、映像があることで画面に集中して、献立の説明や内容を聞いている姿が多く見られた。学活や家庭科の授業の中で、食に関する知識に関することを、「給食の時間に聞いたよ！」という声が聞かれるようになった。

○研修も動画を活用することで、新しく着任した職員にもわかりやすく、本校の決まりを職員全員に理解してもらうことができ、時間短縮にもなっている。

●保護者へのレシピ紹介については、今後の保護者意識調査の中で、結果を確認していく。また、レシピ動画はまだ多く作ることができておらず数を増やしていく。

### 4) おわりに

コロナに配慮する生活となり、丸2年が過ぎた。なかなか陽性者はゼロにはならず、マスクをしなくてよい生活がいつ来るとは言えないが、ウィズコロナの生活に少しずつ慣れてきて、食に関する指導も今の環境でできることを考えるようにもなってきた。コロナに対応するために、今までとは全く違う角度から指導の仕方を考えたり、ICT化

が進み便利になったりと、逆によいと思えることも多くある。気の持ちようと少しの工夫で、以前の通りではないが、楽しく、よりよく給食時間を過ごすことができるようにも感じる。毎日の給食時間は、体験して学ぶことができ、食生活の実践へと結びつきやすい食育の時間である。献立を通して伝えたいことを、一つでも多く心に響くように伝える工夫を考えながら、食に関する指導を推進していく。

編集後記: 深谷小学校のように ICT も活用しながら食べることの楽しみや大切さ、感謝の気持ちなどを手間暇かけて興味を引くように伝える活動が続ければ、残食する児童も少なくなるようです。魚や野菜の残食が多いとお悩みの学校やご家庭も多いと聞き及んでおります。ご参考にしてみてもは如何でしょうか？

深谷小学校ホームページ

<https://www.fukaya-e.ed.jp/>

